

グローバル市場での競争力強化に向けて、 三菱重工工作機械(株)を設立

Mitsubishi Heavy Industries Machine Tool Co., Ltd. Begins Operations



代表取締役社長 白尾誠二

三菱重工工作機械株式会社
企画管理部

三菱重工業(株)(以下、三菱重工)は 2015 年 10 月 1 日、三菱重工の営む工作機械事業を、三菱重工の 100%出資子会社である三菱重工工作機械販売(株)に承継させる会社分割により、三菱重工の 100%出資子会社となる事業会社として三菱重工工作機械(株)を設立した。

この会社設立の狙いは、工作機械市場は近年、国内外の需要構造が大きく変化しており、工作機械の専門メーカー各社は迅速な意思決定を行うことで競争力の向上に取り組んでいるが、三菱重工グループにおいても、グローバル市場での競争力強化に向け、製造と販売の一体化により組織の機動力を高めるとともに、迅速な意思決定を行える体制を整えることにある。

1. 設立の背景

日本の工作機械業界は 2010 年のリーマンショック以降、需要が順調に回復し、2015 年の受注は年初に過去最高額に匹敵する 1 兆 5,500 億円と予想されている。しかしながら、この間、同業界を取り巻く環境は大きく様相が変わってきている。例えば、業界受注における内需・外需の割合が中国・東南アジアなど新興国市場の急成長や米国の製造業回帰などを背景にリーマンショック前後で逆転し、外需 7 割/内需 3 割の傾向にある。また、技術面においては近年、国内外のお客様ニーズの高度化やその先取りにより質的变化が現れており、先進国のみならず新興国においても高度な自動化・省力化技術が求められるとともに、更に IoT(Internet of Things)等の情報通信技術を活用した製造革新という新たな技術的潮流が注目されている。

こうした環境変化のもと、世界の工作機械メーカーが競争力の向上に凌ぎを削っている状況にあり、三菱重工グループの工作機械事業についてもお客様対応と事業運営の両面で、組織としての機動力向上による競争力強化が求められている。そこで、事業責任の明確化と意思決定の迅速化を図り、市場環境やお客様ニーズの変化への対応力強化を可能とする体制として、製造・販売一体の事業会社を設立したものである。これまでも三菱重工の事業部門の一つとして、また工作機械メーカーのパイオニアとして高精度・高生産性を追求した製品づくりを通して国内外の産業・インフラの発展に尽力してきたが、事業会社化による機動力の向上によって、今後のさらなる事業強化と拡大が期待される。

2. 新会社の概要

表1に新会社の概要を示す。

表1 新会社の概要

名称	三菱重工工作機械(株)
所在地	滋賀県栗東市六地藏 130 番地
代表者の役職・氏名	取締役社長 白尾 誠二
事業内容	工作機械、切削工具、エンジンバルブ及びその関連製品の設計、製造、販売並びにコンサルティング、同製品の据付、操作指導、修理、改造、点検、保管等
資本金	3000 百万円
人員	約 1000 名
営業・サービス拠点	国内 東京、名古屋、大阪、広島 米州 アメリカ、メキシコ、ブラジル 欧州 ドイツ アジア 中国、タイ、インドネシア、インド、フィリピン、台湾、韓国
海外製造拠点	アメリカ ブローチ工具及びブローチ盤の設計・製造・販売 (Federal Broach Holdings, LLC) インド 歯車切削用工具の設計・製造・販売 (Mitsubishi Heavy Industries India Precision Tools, Ltd.) 中国 歯車工作機械及び大型工作機械の組立 (三菱重工(常熟)機械有限公司)

3. 新会社の事業展開

新会社は経営理念として、“お客様の生産活動における目的達成・課題解決のために最適な提案を行い、お客様のものづくりの価値向上に貢献する”ことを掲げ、参入分野でのグローバルトップメーカーを目指し、次の三つの分野において事業展開を行っている。

(1) 歯車加工システム事業

この事業においては、ホブ盤・ギヤシーパ・シェービング盤・歯車研削盤・ヘリカルブローチ盤などフルラインナップの歯車工作機械とともに、歯車用切削工具も取り扱っており、歯車加工に関するお客様の様々な課題に対し最適な解決策を提案できる強みがある。1997年には世界に先駆けて切削油を一切使用しないドライカット歯車加工システムを市場投入し、近年では世界初の新製品・新技術として量産対応用の内歯車研削盤(2009年)、スーパースカイピング加工法(2014年)を開発するなど歯車加工分野のリーディングカンパニーとして確固たる地歩を占めている。

今後もダントツに強い商品力を持つ機械と工具の開発と、それらのコラボレーション強化、世界最適生産体制の構築により世界トップを目指す。

(2) トータルソリューション事業

この事業は三菱重工のエネルギー・環境や航空・宇宙などの生産現場や日本の主力産業の一つである自動車メーカー(エンジン・トランスミッション生産現場)への豊富な納入実績を通じて鍛えられた専用工作機械や大形工作機械(門型五面加工機や横中ぐりフライス等)が設備の核となるが、事業環境の変化に適合し新会社の第二の柱として伸長させるべく、ビジネスモデルの変換を図りつつある。具体的には、これまでのハードウェアの単体販売から、ソリューション提案型ビジネスを指向し、お客様のものづくりの現場での様々な問題・課題に対し検討段階から参画、新会社の強みであるエンジニアリング力や加工技術力、工具技術力を活かした最適解決策をお客様に提供しようというものである。新規の設備や生産ラインへの対応に加え、お客様のニーズを踏まえたオーバーホールやレトロフィット事業、メンテナンスサービス事業にも注力していくことになる。

